

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	人間科学コース(地理学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)									
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 		<p>人間科学コースでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする人間科学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような人間科学コースの学習成果を上げた者とする。</p>									
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)									
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、人間科学を構成する3つの専門分野における、分野全般を概観する「社会学概論A」、「哲学概論A・B」、「地理学概論A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基本的考え方や基礎技術を習得するための「社会調査演習」、「社会統計学1」、「論理学」、「人間学基礎講義」、「地域調査基礎演習」、「地域調査基礎実習」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するために「社会調査実習」、「西洋古代中世哲学特殊講義A」、「人間学特殊講義」、「地域調査応用演習」、「地域調査応用実習」などを学ぶ。(ただし、経過選択を可能としているので、各自の到達水準によって、履修時期を1年次から主として3年次までの間で、幅をもたせて設計している授業科目がある。) 4年次には、「卒業論文演習A・B」での指導を受け、自分の研究を「卒業論文」にまとめる。これらに加え、2～4年次を通じて、人間科学および他の人文諸学の領域の基礎知識や最新トピックを講義および演習を通じて学ぶ。</p>		<p>人間科学を構成する各専門分野の学習を通じて、人間・社会・環境についての総合的・多面的な理解を得ることができる。</p> <p>自ら課題を設定し、その解決のために適切な方法論を構築し、合理的な結論を導くことができる。</p> <p>既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できる。</p> <p>現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献理解を通じて的確にアプローチすることができる。</p> <p>対象に応じた質的・計量的な分析方法を取捨選択し、適切な分析をおこなうことができる。</p> <p>情報収集や分析、考察の結果について、口頭や文書などで報告することができる。</p>									
主履修分野のカリキュラム											
科目番号	授業科目名	学生習得目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4				
21101	グローバル化時代の人間科学	・グローバル化のプロセスがもつ意味を理解する。 ・グローバル化の影響を理解する。 ・人間科学の諸分野の学問的方法や固有の領域について理解する。	2		*				◎		
41232	地理学概論A	地理学において鍵となる基礎概念をきちんと理解できるようになる。	1	*	*				○		
21103	地理学概論B	地理学が対象とする地域に関する知識を深めることによって、人文地理学的なものの方・考え方を理解することを目標とする。	1			*	*		○		
41201	自然地理学概説A	日本・世界の自然環境の分布・形成史・相互関係についての理解を深めると共に、自然環境と人間社会との関連性へ着目できるようになる。	1	*	*				○		
41202	自然地理学概説B	自然環境と人間社会の基層的な関係を理解すると共に、現代社会における自然環境に対する社会の責務を考えられるようになる。	1			*	*		○		
41203	日本地誌A	多様な空間的スケールから、国内諸地域の人口動態や産業構造について理解する。	1	*	*				○		
41204	日本地誌B	様々な空間的スケールから、国内諸地域の多様な生産活動・消費活動を理解できるようになる。	1	*	*				○		
41205	世界地誌A	グローバリゼーションのもとでアジア地域が抱える諸問題について基礎的な知見を得る。	1			*	*		○		
41206	世界地誌B	現行の開発政策や海外援助のあり方を批判的に見直して、現場の事実に基づいた途上国理解を得る。	1			*	*		○		
41233	地理情報学1	地理情報システムの基礎に関する知識を取得する。	2	*					○		○
41234	地理情報学2	地理情報システムの応用に関する知識を取得する。	2		*				○		○
41235	人文地理学特殊講義1	人口地理学の基本的な知識や概念を理解する。	2	*					○		
41236	人文地理学特殊講義2	人口地理学の基本的な知識や概念を理解する。	2		*				○		

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	人間科学コース(地理学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 					<p>人間科学コースでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする人間科学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような人間科学コースの学習成果を上げた者とする。</p>					
<p>学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)</p> <p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、人間科学を構成する3つの専門分野における、分野全般を概観する「社会学概論A」、「哲学概論A・B」、「地理学概論A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基本的考え方や基礎技術を習得するための「社会調査演習」、「社会統計学1」、「論理学」、「人間学基礎講義」、「地域調査基礎演習」、「地域調査基礎実習」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するために「社会学調査実習」、「西洋古代中世哲学特殊講義A」、「人間学特殊講義」、「地域調査応用演習」、「地域調査応用実習」などを学ぶ。(ただし、経過選択を可能としているので、各自の到達水準によって、履修時期を1年次から主として3年次までの間で、幅をもたせて設計している授業科目がある。)4年次には、「卒業論文演習A・B」での指導を受け、自分の研究を「卒業論文」にまとめる。これらに加え、2～4年次を通じて、人間科学および他の人文諸学の領域の基礎知識や最新トピックを講義および演習を通じて学ぶ。</p>					<p>コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)</p> <p>人間科学を構成する各専門分野の学習を通じて、人間・社会・環境についての総合的・多面的な理解を得ることができる。</p> <p>自ら課題を設定し、その解決のために適切な方法論を構築し、合理的な結論を導くことができる。</p> <p>既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できる。</p> <p>現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献理解を通じて的確にアプローチすることができる。</p> <p>対象に応じて質的・計量的な分析方法を取捨選択し、適切な分析をおこなうことができる。</p> <p>情報収集や分析、考察の結果について、口頭や文書などで報告することができる。</p>					
主履修分野のカリキュラム										
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4			
41237	自然地理学特殊講義1	自然地理学が取り扱うさまざまな領域について、先端的な知識を導入しつつ考察を深める。	2			*			○	
41238	自然地理学特殊講義2	自然地理学が取り扱うさまざまな領域について、先端的な知識を導入しつつ考察を深める。	2				*		○	
41239	地誌学特殊講義1	現代社会における自然と社会の関係に関する人文地理学の基礎的な理論と概念を理解できるようになることを目標とする。	2	*					○	
41240	地誌学特殊講義2	現代社会における自然と社会の関係に関する人文地理学の応用的な理論と概念を理解できるようになることを目標とする。	2		*				○	
41241	地理情報学実習1	地理情報システムを用いた基本的な空間分析ができるようになる。	2			*				◎
41242	地理情報学実習2	地理情報システムを用いた基本的な空間分析ができるようになる。	2				*			◎
41243	人文地理学演習A1	人文地理学における学術論文の視点・分析視角、研究成果を習得・理解するとともに、人文地理学における地域調査手法を学ぶ。加えて、学生は担当章の発表を通じてプレゼンテーション能力の向上を目指す。	2	*					○	◎
41244	人文地理学演習A2	人文地理学における学術論文の視点・分析視角、研究成果を習得・理解するとともに、人文地理学における地域調査手法を学ぶ。加えて、学生は担当章の発表を通じてプレゼンテーション能力の向上を目指す。	2		*				○	◎
41245	人文地理学演習B1	人口分析の基礎的な手法を学ぶとともに、人口動態の変化を生み出した要因について理解する。	2	*					○	◎
41246	人文地理学演習B2	高度経済成長が日本の人口分布に及ぼした影響を理解するとともに、近年の少子高齢化に対する自治体・企業の対策について理解する。	2		*				○	◎
41247	自然地理学演習1	自然地理学分野における学術論文の読解能力とプレゼンテーションのスキルを身につける。	2			*			○	◎

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	人間科学コース(地理学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)				コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)			
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 				<p>人間科学コースでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする人間科学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような人間科学コースの学習成果を上げた者とする。</p>			
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)				コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)			
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、人間科学を構成する3つの専門分野における、分野全般を概観する「社会学概論A」、「哲学概論A・B」、「地理学概論A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基本的考え方や基礎技術を習得するための「社会調査演習」、「社会統計学1」、「論理学」、「人間学基礎講義」、「地域調査基礎演習」、「地域調査基礎実習」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するために「社会調査実習」、「西洋古代中世哲学特殊講義A」、「人間学特殊講義」、「地域調査応用演習」、「地域調査応用実習」などを学ぶ。(ただし、経過選択を可能としているので、各自の到達水準によって、履修時期を1年次から主として3年次までの間で、幅をもたせて設計している授業科目がある。) 4年次には、「卒業論文演習A・B」での指導を受け、自分の研究を「卒業論文」にまとめる。これらに加え、2～4年次を通じて、人間科学および他の人文諸学の領域の基礎知識や最新トピックを講義および演習を通じて学ぶ。</p>				<p>人間科学を構成する各専門分野の学習を通じて、人間・社会・環境についての総合的・多面的な理解を得ることができる。</p> <p>自ら課題を設定し、その解決のために適切な方法論を構築し、合理的な結論を導くことができる。</p> <p>既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できる。</p> <p>現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献理解を通じて的確にアプローチすることができる。</p> <p>対象に応じて質的・計量的な分析方法を取捨選択し、適切な分析をおこなうことができる。</p> <p>情報収集や分析、考察の結果について、口頭や文書などで報告することができる。</p>			
主履修分野のカリキュラム							
科目番号	授業科目名	学生習得目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4
41248	自然地理学演習2	自然地理学分野における学術論文の読解能力とプレゼンテーションのスキルを身につける。	2				*
41249	地誌学演習1	現代における地理学的諸問題に対する理解を深めるとともに、英語でのプレゼンテーション及び討論を通じて国際的なコミュニケーション力を高める。	2			*	
41250	地誌学演習2	現代における地理学的諸問題に対する理解を深めるとともに、英語でのプレゼンテーション及び討論を通じて国際的なコミュニケーション力を高める。	2			*	
41251	地域調査基礎演習1	地域調査の基礎的な理論と方法を身につけること、具体的には(1)地域に応じた基礎的な研究テーマを設定すること、(2)文献および基礎データの分析を通じて調査対象地域の概要を把握すること、(3)研究テーマに応じた適切な方法論を組み立てることが求められる。	2	*			
41252	地域調査基礎演習2	地域調査の基礎的な理論と方法を身につけること、具体的には(1)研究テーマにふさわしい調査項目を設定すること、(2)調査対象先への調査の依頼と調査のアポイントメントをとること、(3)調査日程の計画を立てることが求められる。	2		*		
41253	地域調査応用演習1	地域調査の応用的な理論と方法を身につけること、具体的には(1)地域に応じた応用的な研究テーマを設定すること、(2)文献および基礎データの分析を通じて調査対象地域の概要を把握すること、(3)研究テーマに応じた適切な方法論を組み立てることが求められる。	3	*			
41254	地域調査応用演習2	地域調査の応用的な理論と方法を身につけること、具体的には(1)研究テーマにふさわしい調査項目を設定すること、(2)調査対象先への調査の依頼と調査のアポイントメントをとること、(3)調査日程の計画を立てることが求められる。	3		*		
41255	自然環境応用演習1	自然地理学における地域調査について、その理論と方法を理解する。	3	*			

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	人間科学コース(地理学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)				コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)			
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 				<p>人間科学コースでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする人間科学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような人間科学コースの学習成果を上げた者とする。</p>			
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)				コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)			
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、人間科学を構成する3つの専門分野における、分野全般を概観する「社会学概論A」、「哲学概論A・B」、「地理学概論A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基本的考え方や基礎技術を習得するための「社会調査演習」、「社会統計学1」、「論理学」、「人間学基礎講義」、「地域調査基礎演習」、「地域調査基礎実習」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するために「社会学調査実習」、「西洋古代中世哲学特殊講義A」、「人間学特殊講義」、「地域調査応用演習」、「地域調査応用実習」などを学ぶ。(ただし、経過選択を可能としているので、各自の到達水準によって、履修時期を1年次から主として3年次までの間で、幅をもたせて設計している授業科目がある。) 4年次には、「卒業論文演習A・B」での指導を受け、自分の研究を「卒業論文」にまとめる。これらに加え、2～4年次を通じて、人間科学および他の人文諸学の領域の基礎知識や最新トピックを講義および演習を通じて学ぶ。</p>				<p>人間科学を構成する各専門分野の学習を通じて、人間・社会・環境についての方法論を構築し、合理的な結論を導くことができる。</p> <p>自ら課題を設定し、その解決のために適切な方法論を構築し、合理的な結論を導くことができる。</p> <p>既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できる。</p> <p>現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献理解を通じて的確にアプローチすることができる。</p> <p>対象に応じた質的・計量的な分析方法を適切に選択し、適切な分析をおこなうことができる。</p> <p>情報収集や分析、考察の結果について、口頭や文書などで報告することができる。</p>			
主履修分野のカリキュラム							
科目番号	授業科目名	学生習得目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4
41256	自然環境応用演習2	自然地理学における地域調査について、その理論と方法を理解する。	3		*		
41257	地域プランニング演習1	地域計画のための地域調の理論と方法を身につける。	3	*			
41258	地域プランニング演習2	地域計画のための地域調の理論と方法を身につける。	3		*		
41259	人文地理学実習1	1)地域調査に際して適切な方法を選定することができるようになること、2)調査から得られたデータを分析するための基礎となる統計学の基礎について理解を深め、主な分析方法をマスターすること、3)コンピュータの操作について習熟し、エクセルを用いた統計分析の手法をマスターすること。	2	*			
41260	人文地理学実習2	1)調査の設計方法を理解し、仮説の立て方や誤差やサンプリング方法、調査票の設計方法やインタビューの方法、フィールドノートの取り方、調査後のデータ整理の方法について理解すること、2)コンピュータの操作について習熟し、各種の作図ソフトの利用法をマスターすること。	2		*		
41261	自然地理学実習1	自然地理学・自然環境計測に関する諸技術を取得する(地形図の理解と地形測量)。	2	*			
41262	自然地理学実習2	自然地理学・自然環境計測に関する諸技術を取得する(空中写真および天気図の判読、現地実習)。	2		*		
41263	地域調査基礎実習1	地域調査の結果得られたデータに基づいて分析をおこない、その結果を論文にまとめる基礎的能力を身につける。	2			*	
41264	地域調査基礎実習2	地域調査の結果得られたデータに基づいて分析をおこない、その結果を論文にまとめる基礎的能力を身につける。	2				*
41265	地域調査応用実習1	地域調査の結果得られたデータに基づいて分析をおこない、その結果を論文にまとめるより高度な能力を身につける。	3			*	
41266	地域調査応用実習2	地域調査の結果得られたデータに基づいて分析をおこない、その結果を論文にまとめるより高度な能力を身につける。	3				*

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	人間科学コース(地理学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)							コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)						
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 							<p>人間科学コースでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする人間科学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような人間科学コースの学習成果を上げた者とする。</p>						
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)							コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)						
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、人間科学を構成する3つの専門分野における、分野全般を概観する「社会学概論A」、「哲学概論A・B」、「地理学概論A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基本的考え方や基礎技術を習得するための「社会調査演習」、「社会統計学1」、「論理学」、「人間学基礎講義」、「地域調査基礎演習」、「地域調査基礎実習」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するために「社会学調査実習」、「西洋古代中世哲学特殊講義A」、「人間学特殊講義」、「地域調査応用演習」、「地域調査応用実習」などを学ぶ。(ただし、経過選択を可能としているので、各自の到達水準によって、履修時期を1年次から主として3年次までの間で、幅をもたせて設計している授業科目がある。)4年次には、「卒業論文演習A・B」での指導を受け、自分の研究を「卒業論文」にまとめる。これらに加え、2～4年次を通じて、人間科学および他の人文諸学の領域の基礎知識や最新トピックを講義および演習を通じて学ぶ。</p>							<p>人間科学を構成する各専門分野の学習を通じて、人間・社会・環境についての総合的・多面的な理解を得ることができる。</p> <p>自ら課題を設定し、その解決のために適切な方法論を構築し、合理的な結論を導くことができる。</p> <p>既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できる。</p> <p>現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献理解を通じて的確にアプローチすることができる。</p> <p>対象に応じて質的・計量的な分析方法を取捨選択し、適切な分析をおこなうことができる。</p> <p>情報収集や分析、考察の結果について、口頭や文書などで報告することができる。</p>						
主履修分野のカリキュラム													
科目番号	授業科目名	学生目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4						
41267	自然環境応用実習1	自然地理学分野における研究課題を設定し、適切な調査(フィールドワーク)を設計・実施し、得られたデータを分析、考察し、レポートを作成する能力を身につける。	3	*					○		◎	○	◎
41268	自然環境応用実習2	自然地理学分野における研究課題を設定し、適切な調査(フィールドワーク)を設計・実施し、得られたデータを分析、考察し、レポートを作成する能力を身につける。	3		*				○		◎	○	◎
41269	地域プランニング実習1	自ら調査を設計すること。現地調査によってデータを取得すること。取得したデータの分析手法を身につけること。以上の能力を身につける。	3	*	*				○		◎	○	◎
41270	地域プランニング実習2	現地調査で得られたデータの分析を行い、その結果に基づいて、論理的に整合する内容の報告書を作成する。	3			*	*		○		◎	○	◎
41271	地域調査野外実習A	実際の調査対象地域において、地域調査の基礎的な理論と方法を実践的に身につける。	2		*						◎	○	
41272	地域調査野外実習B	実際の調査対象地域において、地域調査の応用的な理論と方法を実践的に身につける。	2		*						◎	○	
31001	卒業論文演習A	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。 ・学術論文の形式を理解する。	4	*	*				◎				
31002	卒業論文演習B	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ・得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようになる。	4			*	*		◎				
31003	卒業論文	・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文学的学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを充たすために必要な論述の条件について知る。	4			*	*		◎				

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	人間科学コース(地理学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)									
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 		<p>人間科学コースでは、人間の行動・思想・文化、思考・創造・歴史・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする人間科学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような人間科学コースの学習成果を上げた者とする。</p>									
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)									
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、人間科学を構成する3つの専門分野における、分野全般を概観する「社会学概論A」、「哲学概論A・B」、「地理学概論A・B」を選択し学ぶことが推奨される。2年次には、専門分野の基本的考え方や基礎技術を習得するための「社会調査演習」、「社会統計学1」、「論理学」、「人間学基礎講義」、「地域調査基礎演習」、「地域調査基礎実習」などを学ぶ。3年次には、さらに高度な方法論や知識を修得するために「社会学調査実習」、「西洋古代中世哲学特殊講義A」、「人間学特殊講義」、「地域調査応用演習」、「地域調査応用実習」などを学ぶ。(ただし、経過選択を可能としているので、各自の到達水準によって、履修時期を1年次から主として3年次までの間で、幅をもたせて設計している授業科目がある。) 4年次には、「卒業論文演習A・B」での指導を受け、自分の研究を「卒業論文」にまとめる。これらに加え、2～4年次を通じて、人間科学および他の人文諸学の領域の基礎知識や最新トピックを講義および演習を通じて学ぶ。</p>		<p>人間科学を構成する各専門分野の学習を通じて、人間・社会・環境についての総合的・多角的な結論を導くことができる。</p> <p>自ら課題を設定し、その解決のために適切な方法論を構築し、合理的な結論を導くことができる。</p> <p>既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できる。</p> <p>現代社会が抱える様々な問題に対してフィールドワークや資料分析、文献理解を通じて的確にアプローチすることができる。</p> <p>対象に応じて質的・計量的な分析方法を取捨選択し、適切な分析をおこなうことができる。</p> <p>情報収集や分析、考察の結果について、口頭や文書などで報告することができる。</p>									
主履修分野のカリキュラム											
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4				
11057	人文学序説A	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・ラボラトリ(実験)、サーベイ(調査と分析)という方法の基礎的な知識を理解する。	1	*		(*)					◎
11058	人文学序説B	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・フィールドワーク(野外実習・調査)という方法の基礎的な知識を理解する。	1		*	(*)					◎
11059	人文学序説C	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・哲学・歴史学分野における具体的な研究実践やテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1	(*)		*					◎
11060	人文学序説D	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・言語や文学に関するテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1		(*)	*					
11061	学類共通英語A	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3	*							◎
11062	学類共通英語B	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・「学類共通英語A」より高いレベルで、英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3		*						◎

※ (*)は年度によって開講時期が異なることを示します。